

S3-2 Diabetic footに対する高気圧酸素治療

宮田健司¹⁾ 川寫真人¹⁾ 田村裕昭²⁾

佐々木誠人¹⁾ 永芳郁文¹⁾ 川寫眞之¹⁾

本山達男¹⁾ 村岡静香¹⁾ 高尾勝浩¹⁾ 山口 喬¹⁾

- (1) 医療法人玄真堂 川寫整形外科病院
(2) 医療法人玄真堂 かわしまクリニック

糖尿病患者の足部に生じる水泡、潰瘍、壊疽などの病変は、総称してDiabetic footと呼ばれる。予後は様々であり、切断を余儀なくされる場合もある。当院ではDiabetic footに対し高気圧酸素治療（以下HBOT）を積極的に行っているが、今回これらの治療成績を調査検討したので報告する。

対象は、1987年5月から2008年6月までに当院で治療を行った94例から中止になった22例を除く、72例81足である。男性48例、女性24例、平均年齢63.8歳、閉塞性動脈硬化症（以下ASO）合併例は33足であった。

治療法は、薬剤療法と外科的処置に加えHBOTの併用療法である。効果判定は創の治癒が得られたものを良、創の50%以上の縮小を認めたものを可、不変または切断に至ったものを不可とした。治療成績は良42足、可25足、不可14足であった。またこれらのうちASOを合併した33足では良14足、可9足、不可10足であり、より治療の困難となる傾向があった。

Diabetic footは、動脈閉塞や末梢神経障害などの原因により生じるため、血糖コントロールが最重要であるが、HBOTは早期病変に極めて有効であり、壊疽や深層におよぶ潰瘍であっても切断率の減少や切断部位の限局化など、臨床的な有用性が高いと考えられる。

S3-3 糖尿病性および末梢動脈閉塞症による難治性潰瘍の治療

～骨髄幹細胞移植と高気圧酸素療法～

松田範子¹⁾ 黄川田信允¹⁾ 前田美紀¹⁾

木山輝郎²⁾ 滝沢隆雄²⁾ 宮本正章³⁾

坂本篤裕¹⁾⁴⁾ 徳永 昭⁵⁾ 田尻 孝²⁾

- (1) 日本医科大学付属病院 ME部
(2) 日本医科大学付属病院 外科
(3) 日本医科大学付属病院 内科・再生医療科
(4) 日本医科大学付属病院 麻酔科
(5) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター

【目的】当施設では1970年1月以降、高気圧酸素治療（HBO）を施行している。近年、難治性潰瘍症例が増加しており、その背景には糖尿病および四肢末端循環障害が考えられる。再生医療による難治性潰瘍の治療とHBOの併用も含めた治療効果について検討した。

【方法・対象】第2種装置（羽生田鉄工製パナコンS1000型）で純酸素吸入し、空気加圧2.8ATA下で施行した。対象は、2000年1月～2008年7月までの期間にHBO治療を施行した難治性潰瘍症例である。

【結果】総症例数は125例で、2000年が1例、以降5例、13例、8例、7例、6例、29例、31例、25例と特に2006年以降急増している。難治性潰瘍の原因としては末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症、バージャー病、うっ滞性皮膚炎など）、自己免疫疾患（強皮症、SLE、レイノー病、混合性結合組織病、関節リウマチ、結節性多発性動脈炎など）、糖尿病、蜂窩織炎などであった。再生医療（自己骨髄幹細胞移植、血管新生療法、LipoPGE1動注など）とHBOとの併用により、治療効果は125例中完治または改善例が104例と多数を占め、83.2%に有効であった。

【結語】難治性潰瘍の治療に際してのHBOの効果は、①末梢循環障害においては血流の改善を行った後、②さらに感染が制御されている状態、膠原病に関しては少ない回数で、高い治療効果が得られた。